

2015/4/17

## 柏の景気情報（平成27年3月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成27年3月分）

○ 調査期間 : 平成27年3月19日 ~ 3月27日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	83	53.2%
建設	44	22	50.0%
製造	33	19	57.6%
卸・小売	43	26	60.5%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

## 【平成27年3月の調査結果のポイント】

### 《業況DIは3ヶ月連続で改善するも、個人消費回復の遅れやコスト増が課題》

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.0(前月水準▲18.5)となり、マイナス幅が6.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△15.7(同▲5.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲9.0(同▲28.5)である。変わらない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲42.3(同▲32.0)である。

【建設業】からは、「仕入単価は安定してきているが、工事価格は上がっていない。業況好転を期待している」(電気工事業)、「賃貸物件や社宅の畳表替工事の需要が活発」(内装工事業)、「原材料はやっと上げ止まりとなったようだが、部材、工具、消耗品等の値上げが続いている。一方、昨年秋より見積り依頼の施工単価が下落。無理な受注を控えた結果、昨年暮れから売上高減少となっている。施工単価は改善されそうもなく、売上高の現状維持、今迄以上に経費削減をして採算維持することが大きな課題となっている」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「年度末による発注集中により、加工業者の工数が不足しており、納期確保に苦労している」(その他の機械・部品製造業)、「引き続き洋酒の消費が堅調に推移。4月からは不透明だが、急激な減少も考えづらい」(酒類製造業)、「仕入価格上昇につき、転嫁要望を提出中。採算の合わない企業との取引を控えるよう交渉中」(その他の金属製品製造業)、「2011年3月1日以降、減退を続けていた3月の売上高回復の傾向があるが、今後の流れを一過性かどうか注視する」(印刷業)、「生産量の増加が見込めない中、現時点では賃上げ予定は無いが、高齢化が進み、若年者の採用に当たっては厳しい状態となってくる。従業員は現在過剰感がある。なお、一時金については、何とか考えていきたい」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「去年の駆け込み需要が期待より悪かったのか、今年3月は昨年と変わらない売り上げ維持出来そう。4月からは、増税後の影響が出た昨年より、消費者が8%に慣れてきているので維持できそう」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「卒業関連の特注が好調。逆に一般売上は低迷」(菓子・パン小売業)、「ひな祭りが日曜の関係で、若干減。ホワイトデーは例年並みに」(菓子・パン小売業)、「春物青果物は、寒暖差もあり、入荷にバラつきのある中、市場取引に高値、安値の品目で動いています。新年度、さくらまつりや人事異動などで消費が動く事が予想されます」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「法人需要では、北陸方面の職場旅行が人気。個人需要では、9月シルバーウィークが大人気。特にハワイが既にいっぱい。夏の中欧、スイスへのチャーターフライトが熟年夫婦やグループに人気。新幹線開業による北陸と善光寺御開帳による長野、相変わらず大阪のテーマパークが人気」(旅行業)、「市内にある自社の住宅用賃貸物件については、この繁忙期で満室となりました。賃料も安定しています。その他、現在、市内自社所有地にロードサイド店舗の出店申込みを頂いています。全体として良好な経営状態です」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

### ◎消費増税前駆け込み需要の反動減

各業種から、「前年は、消費税増税前の駆け込み需要が、化粧品・宝飾・時計など高額品に顕著であり、本年は想定通りの反動影響が大きい。また、婦人衣料や雑貨は、前半の低温により春物の動きが良くない。食品は消費税増税の影響は比較的少ないものの、一部酒などのアイテムで反動が顕著である」(百貨店)、「前年は、消費税8%前の駆け込みのため、大きく売上を伸ばせたこともあり、今年は、昨年よりも大幅に下回った」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

### ◎仕入単価上昇

各業種から、「仕入単価は全体的にシーズン初めの品は上がっているが、業界の体質で値崩れも早い。特に春物は、販売時期が短いため、顕著である」(婦人・子供服小売業)、「仕入れ価格は上昇しており、売価は横ばいのため、利益減です」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

### ◎先行き不透明

各業種から、「4月以降の受注はほとんど無い。27年度の状況は全く不明である」(石工れんがタイルブロック工事業)、「正直なところ、見通しが立たないのが本音。我々は設備投資が膨らむことを期待しているが、円安・株高であってもわからない」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲21.6	±0.0	▲11.7	▲55.5	▲6.6
11月	▲28.7	▲9.5	▲25.0	▲53.5	▲13.3
12月	▲32.1	▲15.3	▲22.2	▲68.0	▲13.3
1月	▲24.3	▲20.0	±0.0	▲54.1	▲13.3
2月	▲18.5	▲28.5	▲5.2	▲32.0	±0.0
3月	▲12.0	▲9.0	△15.7	▲42.3	±0.0
見通し	▲12.0	△4.5	▲5.2	▲42.3	△6.2

見通しは今年の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成27年3月の業況についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.0(前月水準▲18.5)となり、マイナス幅が6.5ポイント縮小した。

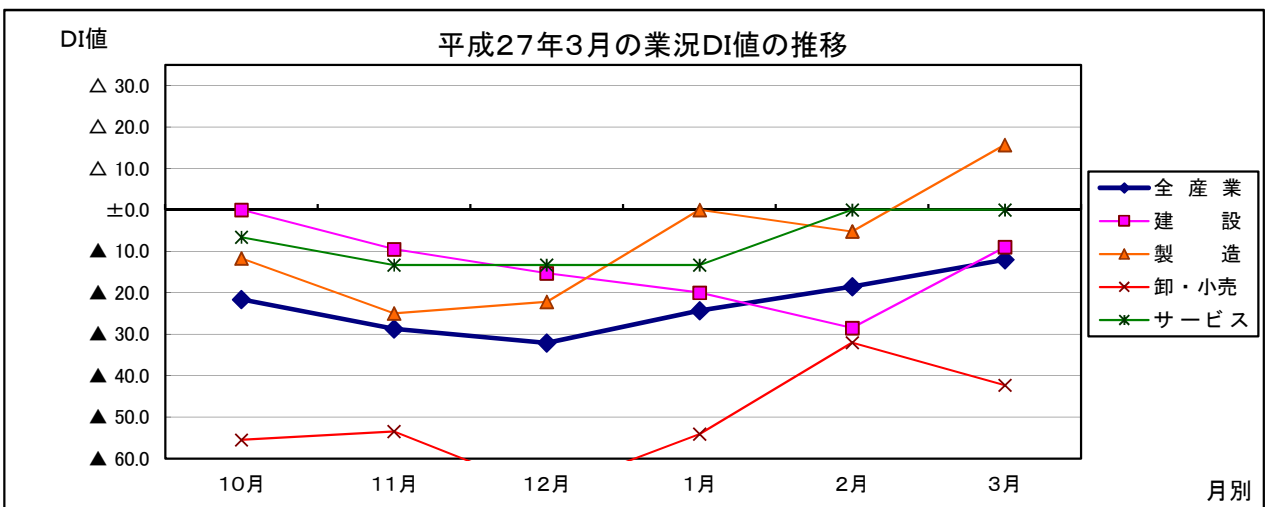
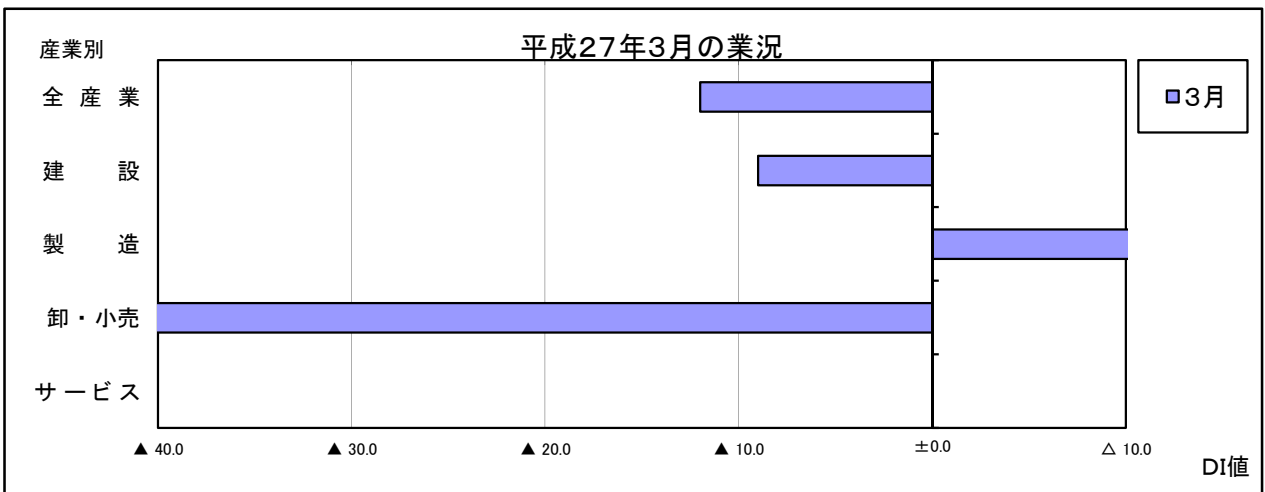
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△15.7(同▲5.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲9.0(同▲28.5)である。変わらない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲42.3(同▲32.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.0(前月水準▲14.8)となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△6.2(同▲6.2)、建設業△4.5(同▲4.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.2(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲42.3(同▲32.0)である。

平成27年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲21.6	▲28.7	▲32.1	▲24.3	▲18.5	▲12.0	▲12.0(▲14.8)
建設	±0.0	▲9.5	▲15.3	▲20.0	▲28.5	▲9.0	△4.5(▲4.7)
製造	▲11.7	▲25.0	▲22.2	±0.0	▲5.2	△15.7	▲5.2(▲10.5)
卸・小売	▲55.5	▲53.5	▲68.0	▲54.1	▲32.0	▲42.3	▲42.3(▲32.0)
サービス	▲6.6	▲13.3	▲13.3	▲13.3	±0.0	±0.0	△6.2(▲6.2)



【平成27年3月の売上についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.8(前月水準▲13.5)となり、マイナス幅が3.3ポイント拡大した。

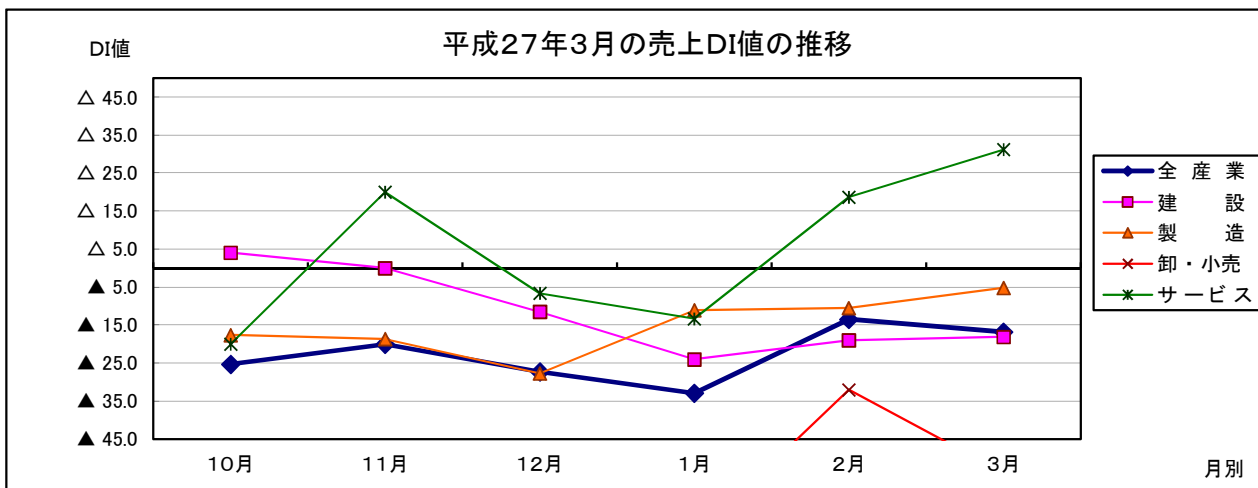
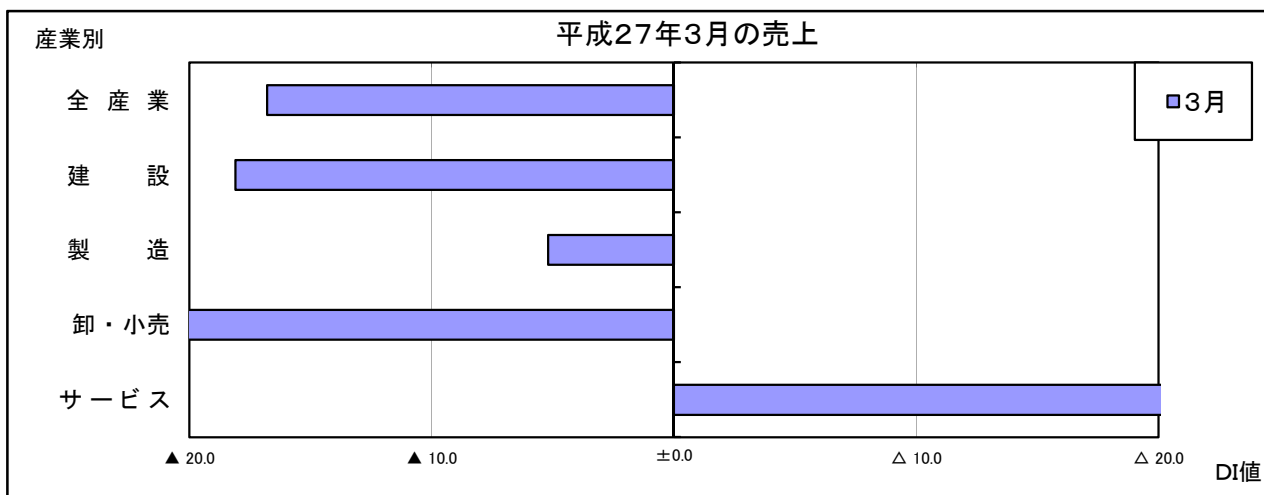
業種別では、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△31.2(同△18.7)である。マイナス幅が縮小した業は、幅の大きい順に、製造業▲5.2(同▲10.5)、建設業▲18.1(同▲19.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲53.8(同▲32.0)であり、マイナス幅が21.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.2(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が2.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△12.5(同△6.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲30.7(同▲36.0)、製造業▲5.2(同▲10.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△4.5(同△9.5)である。

平成27年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲25.3	▲20.0	▲27.3	▲32.9	▲13.5	▲16.8	▲7.2(▲9.8)
建設	△4.1	±0.0	▲11.5	▲24.0	▲19.0	▲18.1	△4.5(△9.5)
製造	▲17.6	▲18.7	▲27.7	▲11.1	▲10.5	▲5.2	▲5.2(▲10.5)
卸・小売	▲59.2	▲57.1	▲56.0	▲70.8	▲32.0	▲53.8	▲30.7(▲36.0)
サービス	▲20.0	△20.0	▲6.6	▲13.3	△18.7	△31.2	△12.5(△6.2)



【平成27年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.0(前月水準▲18.5)となり、マイナス幅が5.5ポイント拡大した。

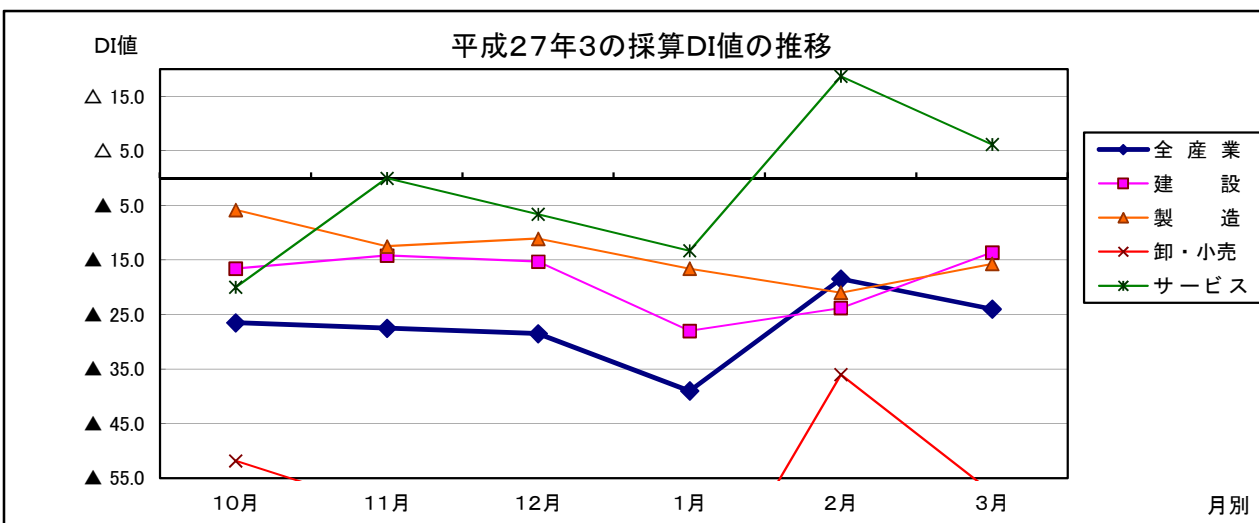
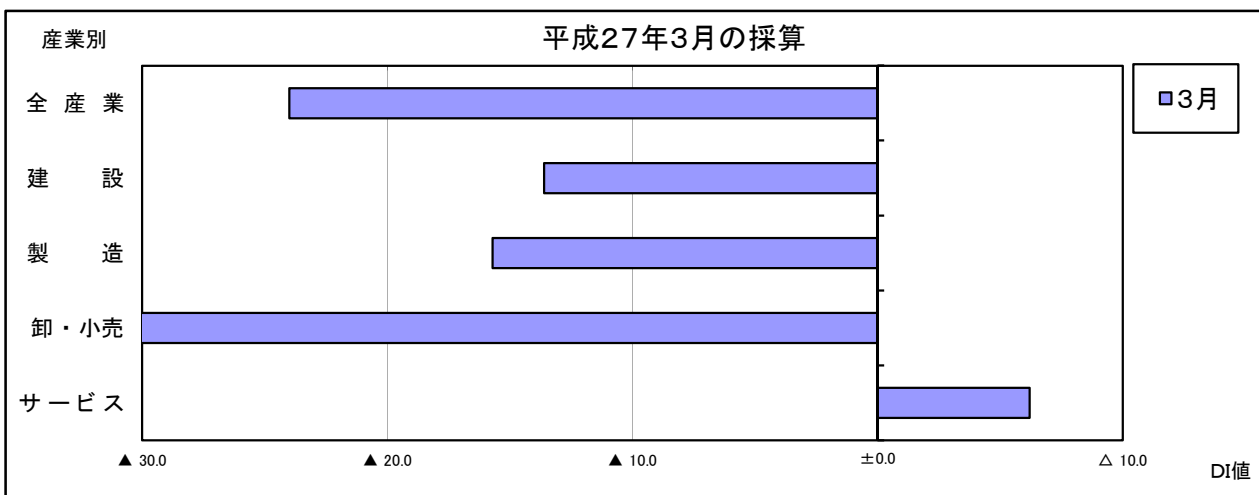
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.6(同▲23.8)、製造業▲15.7(同▲21.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△6.2(同△18.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲57.6(同▲36.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.2(前月水準▲20.9)となり、マイナス幅が7.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△6.2(同▲12.5)、建設業±0.0(同▲4.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲10.5(同▲26.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲38.4(同▲36.0)である。

平成27年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲26.5	▲27.5	▲28.5	▲39.0	▲18.5	▲24.0	▲13.2(▲20.9)
建設	▲16.6	▲14.2	▲15.3	▲28.0	▲23.8	▲13.6	±0.0(▲4.7)
製造	▲5.8	▲12.5	▲11.1	▲16.6	▲21.0	▲15.7	▲10.5(▲26.3)
卸・小売	▲51.8	▲60.7	▲68.0	▲83.3	▲36.0	▲57.6	▲38.4(▲36.0)
サービス	▲20.0	±0.0	▲6.6	▲13.3	△18.7	△6.2	△6.2(▲12.5)



【平成27年3月の仕入単価についての状況】

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.5(同▲41.9)となり、マイナス幅が2.6ポイント拡大した。

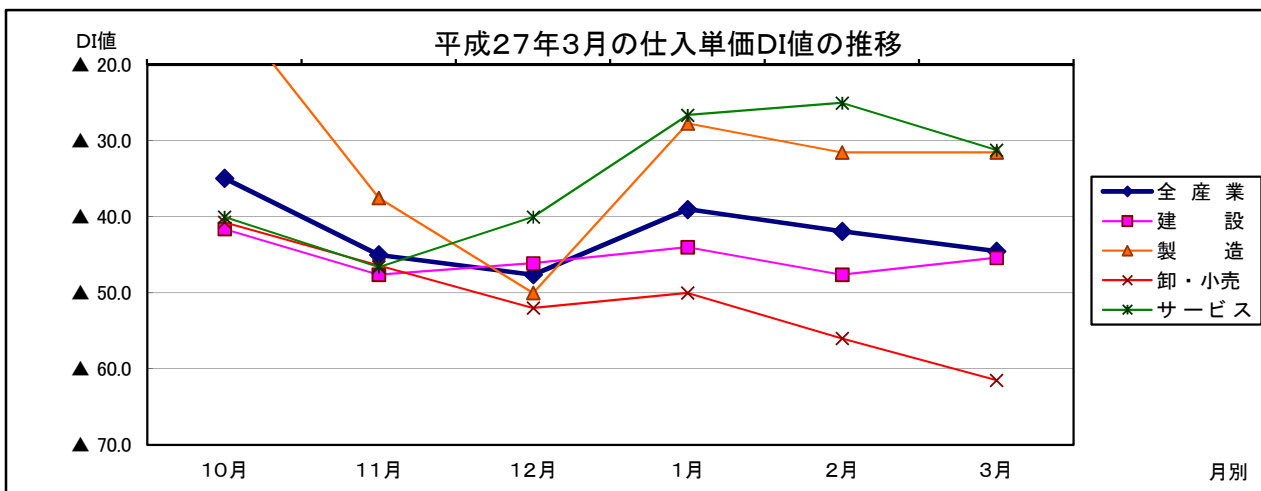
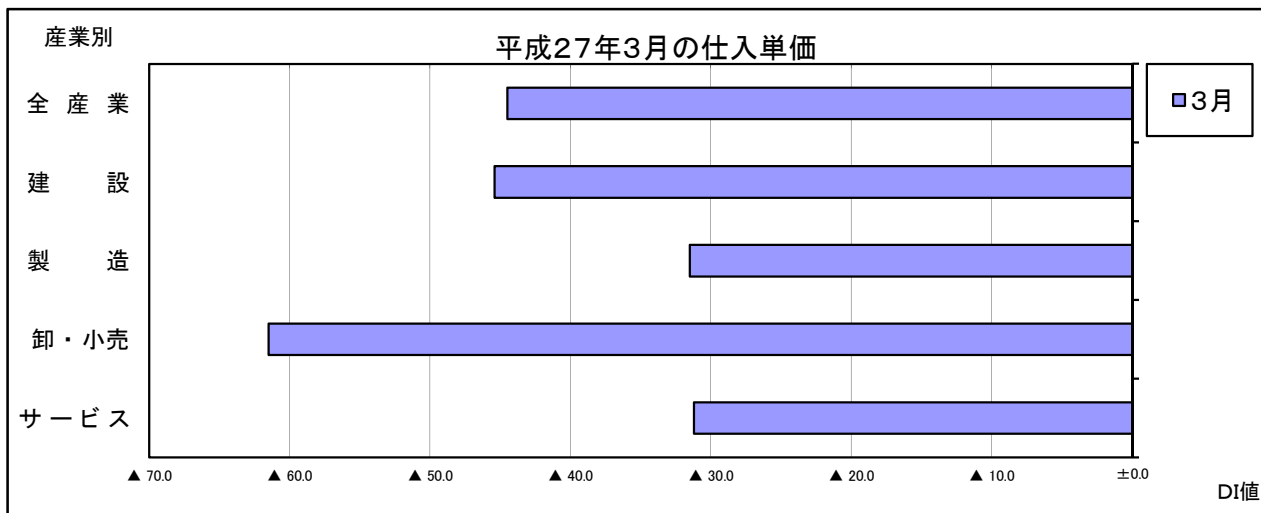
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲45.4(同▲47.6)である。変わらない業種は、製造業▲31.5(同▲31.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲31.2(同▲25.0)、卸小売業▲61.5(同▲56.0)である。

○向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲38.5(前月水準▲28.3)となり、マイナス幅が10.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲42.3(同▲44.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲18.7)、建設業▲40.9(同▲28.5)、製造業▲26.3(同▲15.7)であり、特にサービス業では、マイナス幅が25.0ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成27年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲34.9	▲45.0	▲47.6	▲39.0	▲41.9	▲44.5	▲38.5(▲28.3)
建設	▲41.6	▲47.6	▲46.1	▲44.0	▲47.6	▲45.4	▲40.9(▲28.5)
製造	▲11.7	▲37.5	▲50.0	▲27.7	▲31.5	▲31.5	▲26.3(▲15.7)
卸・小売	▲40.7	▲46.4	▲52.0	▲50.0	▲56.0	▲61.5	▲42.3(▲44.0)
サービス	▲40.0	▲46.6	▲40.0	▲26.6	▲25.0	▲31.2	▲43.7(▲18.7)



【平成27年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△7. 2(前月水準△6. 1)となり、プラス幅が1. 1ポイント拡大した。

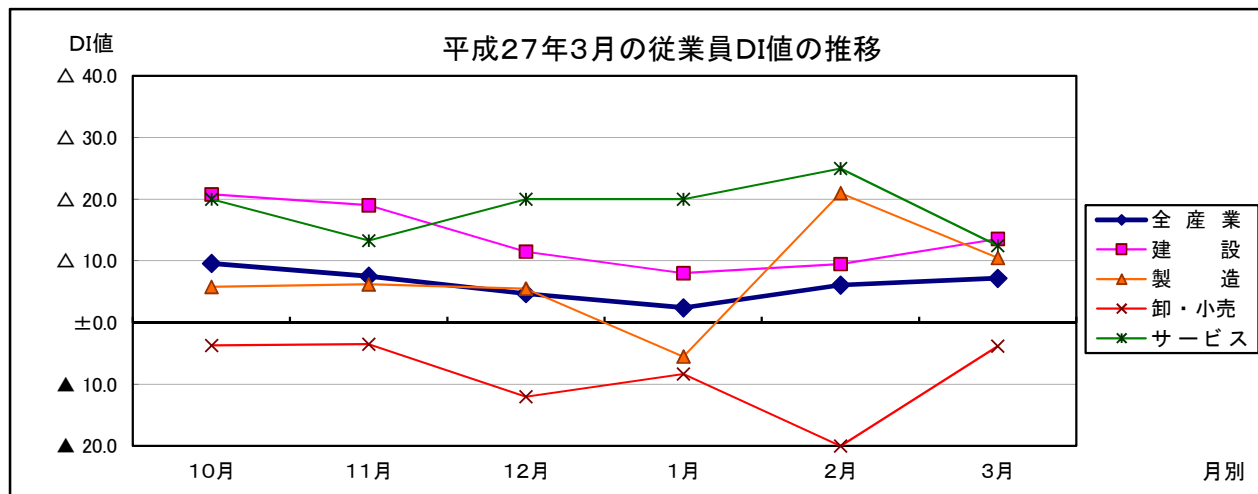
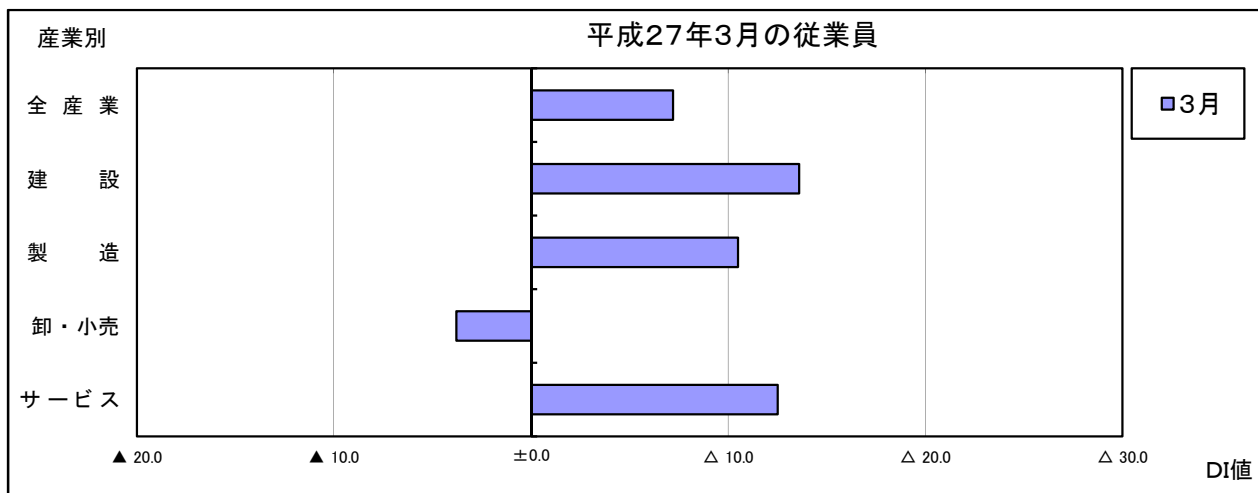
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△13. 6(同△9. 5)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲3. 8(同▲20. 0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△12. 5(同△25. 0)、製造業△10. 5(同△21. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△8. 4(同△8. 6)となり、プラス幅が0. 2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業△3. 8(同▲16. 0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△18. 7(同△31. 2)、建設業±0. 0(同△9. 5)、製造業△15. 7(同△21. 0)である。

平成27年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	△ 9.6	△ 7.5	△ 4.7	△ 2.4	△ 6.1	△ 7.2	△ 8.4 ( △ 8.6 )
建設	△ 20.8	△ 19.0	△ 11.5	△ 8.0	△ 9.5	△ 13.6	±0.0 ( △ 9.5 )
製造	△ 5.8	△ 6.2	△ 5.5	▲ 5.5	△ 21.0	△ 10.5	△ 15.7 ( △ 21.0 )
卸・小売	▲ 3.7	▲ 3.5	▲ 12.0	▲ 8.3	▲ 20.0	▲ 3.8	△ 3.8 ( ▲ 16.0 )
サービス	△ 20.0	△ 13.3	△ 20.0	△ 20.0	△ 25.0	△ 12.5	△ 18.7 ( △ 31.2 )





【平成27年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.0(前月水準▲12.3となり、マイナス幅が6.3ポイント縮小した。

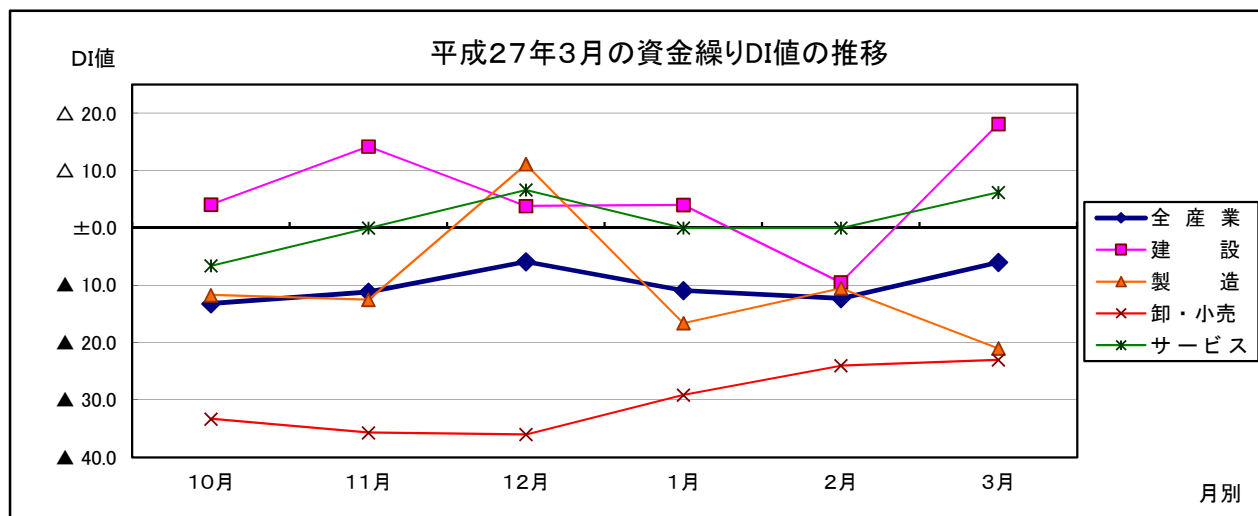
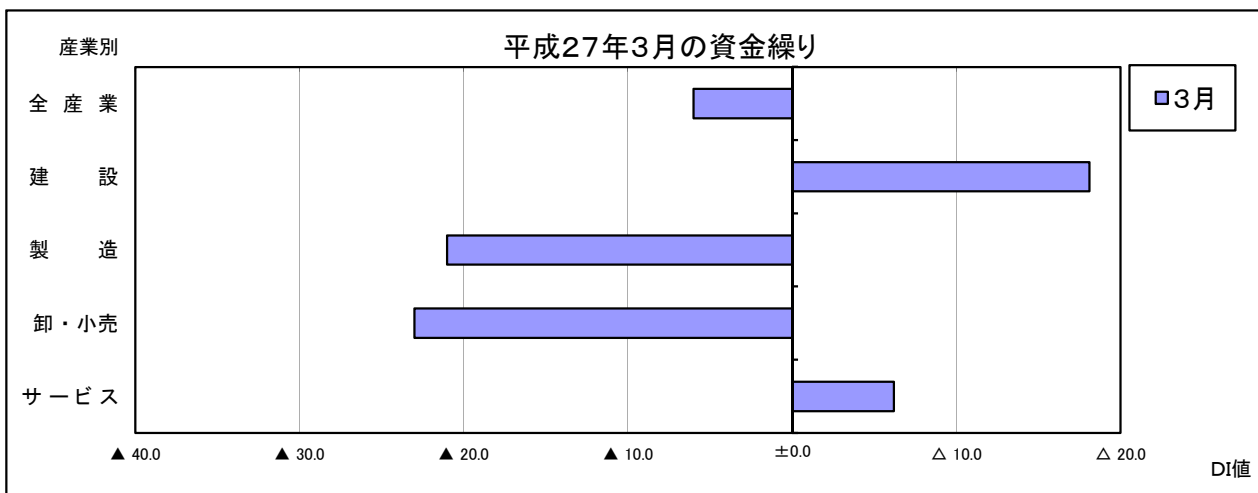
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△6.2(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△18.1(同▲9.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲23.0(同▲24.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲21.0(同▲10.5)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.6(前月水準▲14.8)となり、マイナス幅が11.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△13.6(同△4.7)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△5.2(同▲21.0)、サービス業±0.0(同▲12.5)であり、特に製造業では、26.2ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲26.9(同▲28.0)である。

平成27年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲13.2	▲11.2	▲5.9	▲10.9	▲12.3	▲6.0	▲3.6(▲14.8)
建設	△4.1	△14.2	△3.8	△4.0	▲9.5	△18.1	△13.6(△4.7)
製造	▲11.7	▲12.5	△11.1	▲16.6	▲10.5	▲21.0	△5.2(▲21.0)
卸・小売	▲33.3	▲35.7	▲36.0	▲29.1	▲24.0	▲23.0	▲26.9(▲28.0)
サービス	▲6.6	±0.0	△6.6	±0.0	±0.0	△6.2	±0.0(▲12.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 16.8	▲ 7.2	▲ 24.0	▲ 13.2	▲ 44.5	▲ 38.5	△ 7.2	△ 8.4
建設	▲ 18.1	△ 4.5	▲ 13.6	±0.0	▲ 45.4	▲ 40.9	△ 13.6	±0.0
製造	▲ 5.2	▲ 5.2	▲ 15.7	▲ 10.5	▲ 31.5	▲ 26.3	△ 10.5	△ 15.7
卸・小売	▲ 53.8	▲ 30.7	▲ 57.6	▲ 38.4	▲ 61.5	▲ 42.3	▲ 3.8	△ 3.8
サービス	△ 31.2	△ 12.5	△ 6.2	△ 6.2	▲ 31.2	▲ 43.7	△ 12.5	△ 18.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.0	▲ 12.0	▲ 6.0	▲ 3.6
建設	▲ 9.0	△ 4.5	△ 18.1	△ 13.6
製造	△ 15.7	▲ 5.2	▲ 21.0	△ 5.2
卸・小売	▲ 42.3	▲ 42.3	▲ 23.0	▲ 26.9
サービス	±0.0	△ 6.2	△ 6.2	±0.0

【平成27年3月の業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業種
建設	暖かくなり、少し動き始めるか。省エネ住宅ポイント、各種助成金・補助金があるので、うまく紹介していきたい。	省エネ住宅ポイント	一般土木建築工事業
	4月以降の受注はほとんど無い。これが数年前までの仕上げ業者の常態なのかどうかは判断がつかない。27年度の状況は全く不明である。	受注減 先行き不透明	石工れんがタイルブロック工事業
	仕入単価は安定してきているが、工事価格は上がっていない。業況好転を期待している。	仕入単価安定 工事単価不変(上がらない)	電気工事業
	賃貸物件や社宅の畳表替工事の需要が活発。新入社員が入る物件もあるようです。千葉での新生活が幸せであるようにと祈りつつ、心を込めて仕事とをしております。	受注増(畳張替え)	内装工事業
	昨年3月は、消費税の駆け込みがあったため、参考にならない。全体的に見て良くも悪くもない。	増税前駆け込み需要	その他の職別工事業
	原材料はやっと上げ止まりとなったようだが、部材、工具、消耗品等の値上げが続いている。一方、昨秋より見積り依頼の施工単価が下落。無理な受注を控えた結果、昨年暮れから売上高減少となっている。施工単価は改善されそうもなく、売上高の現状維持、今迄以上に経費削減をして採算維持することが大きな課題となっている。	原材料上げ止まり 部材、工具、消耗品等 値上がり 受注単価下落 受注控え 売上減 経費削減 採算維持	その他の職別工事業
製造業	年度末による発注集中により、加工業者の工数が不足しており、納期確保に苦労している。	年度末の受注集中 加工業者の工数不足 納期確保	その他の機械・同部品製造業
	引き続き洋酒の消費が堅調に推移。4月からは不透明だが、急激な減少も考えづらい。	洋酒消費が堅調	酒類製造業
	仕入価格上昇につき、転嫁要望を提出中。採算の合わない企業との取引を控えるよう交渉中。	原材料費高騰 転嫁要望 不採算取引回避	その他の金属製品製造業
	2011年3月11日以降、減退を続けていた3月の売上高回復の傾向があるが、今後の流れを一過性かどうか注視する。	売上高回復	印刷業
	生産量の増加が見込めない中、現時点では賃上げ予定は無いが、高齢化が進み、若年者の採用に当たっては厳しい状態となってくる。従業員は現在過剰感がある。なお、一時金については、何とか考えていきたい。	高齢化 厳しい若年者採用 従業員の過剰感	一般産業用機械・装置製造業
前年は、消費税増税前の駆け込み需要が、化粧品・宝飾・時計など高額品に顕著であり、本年は想定通りの反動影響が大きい。また、婦人衣料や雑貨は、前半の低温により春物の動きが良くない。食品は消費税増税の影響は比較的少ないものの、一部酒などのアイテムで反動が顕著である。	増税前駆け込み需要の反動 春物衣料不調	百貨店	

【平成27年3月の業種別業界内トピックス】

卸小売	<p>去年の駆け込み需要が期待より悪かったのか、今年3月は昨年と変わらない売り上げが維持出来そう。4月からは、増税後の影響が出た昨年より、消費者が8%に慣れてきているので維持できそう。</p>	<p>昨年と同水準</p>	<p>時計・眼鏡・光学機械小売業</p>
	<p>下げ止まりの感はあるが、駅前店としては常磐線の東京・品川への乗り入れの影響が心配。</p>	<p>常磐線の東京・品川駅乗り入れ</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>卒業関連の特注が好調。逆に一般売上は低迷。</p>	<p>卒業関連の受注増 一般売上低迷</p>	<p>菓子・パン小売業</p>
	<p>ひな祭りが日曜の関係で、若干減。ホワイトデーは例年並みに。</p>	<p>ひな祭り ホワイトデー</p>	<p>菓子・パン小売業</p>
	<p>春物青果物は、寒暖差もあり、入荷にバラつきのある中、市場取引ぎに高値、安値の品目で動いています。新年度、さくらまつりや人事異動などで消費が動く事が予想されます。早めの情報を得ながら、取引先に対応していきます。</p>	<p>高値取引商品の増加 消費拡大の予想</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
	<p>仕入単価は全体的にシーズン初めの品は上がっているが、業界の体質で値崩れも早い。特に春物は、販売時期が短いため、顕著である。売上げは天候不順のため、特に良くなかった。個人の消費意欲が全く見られない。</p>	<p>仕入単価上昇 春物衣料不調 個人消費低迷</p>	<p>婦人・子供服小売業</p>
	<p>昨年は、消費税8%前の駆け込みのため、大きく売上を伸ばせたこともあり、今年は、昨年よりも大幅に下回った。少しでもカバーしようとチラシの回数を増やしたり、お買い得な商品を入れても、価格の安いものだけが売れるだけになってしまった。</p>	<p>増税前駆け込み需要の反動減 販促強化 安価商品のみ好調</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
サービス	<p>法人需要では、北陸方面の職場旅行が人気。飲んで騒ぐだけでなく、ゲームやチームビルディングなどを組み入れる職場旅行が少しずつ増えている。個人需要では、9月シルバーウィークが大人気。特にハワイが既にいっぱい。夏の中欧、スイスへのチャーターフライトが、熟年夫婦やグループに人気。新幹線開業による北陸と善光寺御開帳による長野、相変わらず大阪のテーマパークが人気。</p>	<p>北陸方面の職場旅行好調 シルバーウィーク 大阪のテーマパーク人気</p>	<p>旅行業</p>
	<p>お客様からの反響数は増えています。慎重に考えている方が多く、価格値下げの要求が強い。仕入れ価格は上昇しており、売価は横ばいのため、利益減です。</p>	<p>反響数増加 価格値下げ要求 仕入単価上昇 利益幅減</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>駅前ホテルが無くなった影響は周辺の飲食に多大に出てきているようです。</p>	<p>駅前ホテル撤退</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>市内にある自社の住宅用賃貸物件については、この繁忙期で満室となりました。賃料も安定しています。その他、現在、市内自社所有地にロードサイド店舗の出店申込みを頂いています。全体として良好な経営状態です。</p>	<p>住宅用賃貸物件好調 賃料安定化 ロードサイド店舗の申込 良好な経営状態</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>正直なところ、見通しが立たないのが本音。我々は設備投資が膨らむことを期待しているが、円安・株高であってもわからない。</p>	<p>先行き不透明 設備投資への期待 円安・株高</p>	<p>ソフトウェア業</p>

## ◎消費増税前駆け込み需要の反動減

前年は、消費税増税前の駆け込み需要が、化粧品・宝飾・時計など高額品に顕著であり、本年は想定通りの反動影響が大きい。また、婦人衣料や雑貨は、前半の低温により春物の動きが良くない。食品は消費税増税の影響は比較的少ないものの、一部酒などのアイテムで反動が顕著である。

百貨店

去年は、消費税8%前の駆け込みのため、大きく売上を伸ばせたこともあり、今年、昨年よりも大幅に下回った。

その他の各種商品小売業

## ◎仕入単価上昇

仕入単価は全体的にシーズン初めの品は上がっているが、業界の体質で値崩れも早い。特に春物は、販売時期が短いため、顕著である。

婦人・子供服小売業

仕入れ価格は上昇しており、売価は横ばいのため、利益減です

不動産管理業

## ◎先行き不透明

4月以降の受注はほとんど無い。27年度の状況は全く不明である。

石工れんがタイルブロック工事業

正直なところ、見通しが立たないのが本音。我々は設備投資が膨らむことを期待しているが、円安・株高であってもわからない

ソフトウェア業











## 平成27年3月CCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.0に対し、「CCI-LOBO」が▲24.7で柏のほうがマイナス幅が12.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.8に対し、「CCI-LOBO」が▲20.1で柏の方がマイナス幅が3.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.0に対し、「CCI-LOBO」が▲25.1で柏の方がマイナス幅が1.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」の方が▲44.5に対し、「CCI-LOBO」が▲44.5で同じである。「柏の景気」が良い業種は、建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△7.2に対し、「CCI-LOBO」が△11.1で柏の方がプラス幅が3.9小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.0に対し、「CCI-LOBO」が▲14.2で柏の方がマイナス幅が8.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。











# 平成27年3月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 12.0	 ▲ 9.0	 △ 15.7	 ▲ 42.3	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 24.7	 ▲ 6.8	 ▲ 15.6	 ▲ 49.7	 ▲ 17.7


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.8	 ▲ 18.1	 ▲ 5.2	 ▲ 53.8	 △ 31.2
CCI-LOBO	 ▲ 20.1	 ▲ 2.4	 ▲ 9.1	 ▲ 48.7	 ▲ 10.8


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 24.0	 ▲ 13.6	 ▲ 15.7	 ▲ 57.6	 △ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 25.1	 ▲ 14.2	 ▲ 18.7	 ▲ 45.4	 ▲ 15.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 44.5	 ▲ 45.4	 ▲ 31.5	 ▲ 61.5	 ▲ 31.2
CCI-LOBO	 ▲ 44.5	 ▲ 50.5	 ▲ 41.4	 ▲ 49.0	 ▲ 38.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 7.2	 △ 13.6	 △ 10.5	 ▲ 3.8	 △ 12.5
CCI-LOBO	 △ 11.1	 △ 16.3	 △ 7.2	 △ 14.2	 △ 15.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.0	 △ 18.1	 ▲ 21.0	 ▲ 23.0	 △ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 14.2	 ▲ 8.6	 ▲ 12.0	 ▲ 24.8	 ▲ 10.9

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (3月速報)

調査期間：平成27年3月16日～20日

調査対象：全国の422商工会議所が3159企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、前年の反動から足元では一服も、持ち直しに向けた動きが続く

3月の全産業合計の業況DIは、▲24.7と、前月から▲3.0ポイントの悪化。ただし、比較対象の前年同月は、駆け込み需要を背景に卸売業・小売業などで業況が大幅改善した時期であることに留意が必要。コスト増加分の価格転嫁遅れのほか、人手不足や人件費の上昇による生産・営業活動の制約を指摘する声が聞かれるなど、一部では回復にもたつきがみられるものの、中小企業の景況感は、自動車などの輸出増を受けて生産が回復しつつあるほか、好調なインバウンドに下支えされ、総じて持ち直しに向けた動きが続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲18.4（今月比+6.3ポイント）と大幅改善を見込む。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であることに留意が必要。コスト増に伴う収益圧迫や人手不足の長期化が業績改善に向けた懸念材料となり、慎重な見方が残る。他方で、今春の賃上げや株高を背景とする消費者のマイ

ンド好転のほか、輸出増に伴う受注の回復、設備投資の持ち直しを期待する声が聞かれるなど、中小企業における先行き見通しには明るさが始まっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「足元では、下水道などの土木工事が堅調。来年度には学校の耐震工事に着工予定」（一般工事業）。

「製造業の設備投資が徐々に動き始めているが、人手不足のため、対応できるか不安」（建築工事業）。「仕入や人件費などの負担が増大。他方、施工単価は依然として低く、厳しい状況」（建築工事業）

【製造業】「足元の受注増に対応するため、設備投資を計画している」（金属加工機械製造業）。「取引先の生産水準が上昇し、明るさを感じるものの、円安に伴う原材料高や人手不足が足かせとなり、業績改善には至っていない」（自動車部品製造業）。「ワイヤーなどの仕入コストが増大。価格転嫁が困難なため、安価な材料に切り替えるなど、経費削減を進める」

（半導体・電子部品製造業）

【卸売業】「住宅などの需要低迷が続く、積み上がった在庫の消化が進んでいない」（建築資材卸売業）。「好不調の波が大きく、業績が安定しないため、新規の設備投資はしばらく様子を見る予定」（ポルト・ナット等卸売業）。「足元の業況が好転しているため、来年度にベースアップを検討している」（塗料等卸売業）

【小売業】「地元客の購買意欲は低調なもの、国内外の観光客は堅調。特に、免税品の売上は前年度に比べ、約4倍の増加」（百貨店）。「近隣に大手小売店などが相次いで進出。アルバイトの採用が難しくなっているほか、時給も上昇傾向にある」（衣料品販売店）。「駆け込み需要があった前年同月に比べると、婦人服や雑貨などの売上は大幅なマイナスとなっている」（商店街）

【サービス業】「業績は厳しいが、従業員の定着を図るため、定昇などの賃上げを行う」（運送業）。「仕入価格が上昇しているものの、消費税率引き上げ時に販売価格を見直しており、これ以上の転嫁は困難」（飲食店）。「観光客の宿

泊利用は堅調。4月以降も花見客などを中心に予約増が期待できる」（旅館業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲24.5	▲11.3	▲11.3	▲34.3	▲44.0	▲22.8
11月	▲26.0	▲10.2	▲18.8	▲34.6	▲46.9	▲20.0
12月	▲29.7	▲9.4	▲23.6	▲40.5	▲48.7	▲26.0
1月	▲25.9	▲14.4	▲17.5	▲30.5	▲48.2	▲19.2
2月	▲21.7	▲9.4	▲14.9	▲29.8	▲43.5	▲12.9
3月	▲24.7	▲6.8	▲15.6	▲34.2	▲49.7	▲17.7
見通し	▲18.4	▲10.1	▲14.0	▲17.8	▲32.7	▲15.5